

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第2号

令和7年5月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

今回は、『A Iにはない「思考力」の身につけ方 今井むつみ著 筑摩書房』の一部を紹介し、読んで皆さんなりに考えてみてください。A Iに頼るのではなく、**A Iを活用できる人**になり、未知なる未来に向かって逞しく生き抜いていく人になってほしいと願っています。

＊「変化が激しい社会の中で、私たちは何を学び、何を身につけていけばいいのか。」この問いに対する答えは、驚くほど明白です。「考える力」つまり「**思考力**」を身につけることです。

＊暗記しただけの使えない断片的な知識を「**死んだ知識**」と呼びます。逆に、必要なときにすぐに取り出して使える知識、他の知識と組み合わせて新たな知識を生むことができる知識を「**生きた知識**」と呼びます。英語を学校で学んでも、うまく話すことができないのはなぜでしょう？それは、単語と文法をバラバラに暗記しただけの「死んだ知識」になっているからかもしれません。覚えた知識は、その組み合わせ方も含めて理解することが必要です。そこが抜け落ちているのです。

＊「思考力」というのは、「**知識を使って、推論し、問題を解決する力**」であるといえます。問題解決には推論が必要です。スッキリした頭は整理された冷蔵庫のようなものです。「お腹が空いた」という「問題」を解決するために、冷蔵庫を開けると野菜室には野菜が、冷蔵室には肉、魚、豆腐が入っています。カレー粉があったので、ニンジン・玉ねぎ・ジャガイモ・肉を取り出し、カレーを作り食べました。「お腹が空いた」という問題は無事解決されました。たくさんある具材(知識)から、目的のものをさっと取り出すことができれば(情報処理能力・実行機能)、「何を作るか」という推論も楽になります。

「暗記＝学力」と考えている人がいるかもしれませんが、暗記とは整理せずに冷蔵庫にひたすら具材を詰め込んでいるようなもの。取り出して使う、つまり考えることをしなければたくさん詰め込んでも意味はありません。**いろいろなことを断片的に暗記しても、「考える力」がついていなければ、自分の力で学習できるようにはならないのです。**

*私たちは一生を通じて、多くのことを学びながら、同時に直観を磨いているのです。

ChatGPT にできるのは、集積された知識の要約や整理です。ネット上にある大量の情報を集め、次に来そうな単語を確率的に計算してもっともらしく自然に見える文章を作ることは得意です。しかし、**本当の意味で新しい知識を創造することはできないのです。**それが人間とA Iの違いです。

うどんの達人のことを考えてみます。うどんの味とコシは気温と湿度によるとわかっているとします。毎日達人がうどんを作るときの気温と湿度の値を入力し、そのときの塩と水の量を測定します。足ふみの回数や踏む強さも、機械で測定できるでしょう。これらの値をすべて入力してA Iに与えれば、A Iは学習し教えてくれるはずです。そしてその通りにうどんを作る機械もできるでしょう。その機械が作ったうどんは、達人のうどんにかなり似ていて、おいしいと思います。でも、達人と全く同じものができるのでしょうか。できないと思います。達人は、気温と湿度以外の要因を「直観的に感じ取り」、無意識に調整しているはずです。それを口で説明することはなかなかできません。その直観的な「感覚」こそが、人間独自の熟練の技や創造性の源なのです。それを完璧にA Iに移植することはできないはずです。**人間は学びの過程で、考え、間違い、それを自ら修正することで、技を身につけると同時に直観を磨きます。**この直観こそが、この先みなさんが学ぶ上で非常に大切なものです

A Iにはない「思考力」を磨きましょう！

冷蔵庫とうどんの達人の話を深く考えてください。A Iから答えを教えてもらうのではなく、A Iからヒントをもらい、最終的に自分で考えて判断し、解決していくのです。

「間違ふ」ことも重要です。人間は失敗から多くを学ぶことができます。間違ったときの方が難なく解答したときよりも、学びが深まり定着するということがわかっています。

授業において、間違えることを恐れずに、どんどん発言し、間違いから学び合えるような環境を作ってください。

総合的な学習の時間において、A Iからヒントをもらい、それを基に自分の考えを深くさせてください。アンケートの実施、データ分析も必要です。

「勉学・部活動・委員会活動」、日々の学校生活を考えて意図をもって充実させましょう。その積み重ねが重要です。

今自分にできること。頑張ればできそうなこと。

そういうことを積み重ねていかないと、

遠くの目標は近づいてこない。(イチロー)